

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590104216		
法人名	株式会社 ウエルケア		
事業所名	グループホーム 形山		
所在地	〒751-0888 山口県下関市形山町5番57号		TEL 083-263-6611
自己評価作成日	令和06年01月22日	評価結果市町受理日	令和06年03月19日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者様と職員共に家族のように生活をしているという認識で、楽しく、ゆったりと生活が送れるよう努めています。家庭にいた時のように洗濯物を干したり、畳んだり、それぞれが出来ることを發揮し、役割をもって生活出来るよう支援しています。毎月の行事やお誕生会を行い、楽しみになる場を提供しています。毎月の報告やお便りは、ご家族様も楽しみにされています。</p>
---

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/35/index.php">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/35/index.php</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号		TEL 093-582-0294
訪問調査日	令和06年02月10日	評価結果確定日	令和06年03月02日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「形山」は、大きな公園に隣接する広々とした敷地に2021年3月に開設した定員9名のグループホームである。ホームの名前の頭文字で作った理念を掲示し、毎日朝礼時に唱和をして思いを一つに日々の支援に取り組んでいる。ホームドクターと訪問看護師、ホーム看護師と連携して24時間利用者の健康管理に取り組み、安心の医療体制を整えている。セントラルキッチンから提供される料理を一人ひとりに合わせた形態で提供し、ちらし寿司や鏡開きの後のぜんざい、誕生会の手作りケーキ等は利用者大変喜ばれている。外出はコロナ状況を判断しながら対応しているが、天気の良い日は隣の公園の散歩や玄関前の外気浴で気分転換を図っている。職員は家族の気持ちに寄り添い、毎月「形山だより」を送付し、小まめに報告、連絡を行い、家族との信頼関係を築いている、グループホーム「形山」である。</p>
--

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
57 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	64 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:10. 11. 20)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:19. 39)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員は、生き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:31. 32)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域と関わり生活することを基本とした理念を職員とつくり、いつでも見えるリビングに掲示している。朝礼(朝の申し送り)で読み上げている。	開設時に「かたちやま」の頭文字を取った理念を職員全員で作成し、リビングルームに掲示している。毎日の朝礼時に理念を唱和して職員一人ひとりが共有に努め、常に理念を意識した介護サービスに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域との交流は、まだ出来ていない。近所の公園や外を眺めたり、近所の方と挨拶を交わしている。	コロナ禍の中での開設であったので、地域との関係作りはこれからである。隣が大きな公園であり、散歩時に会った地域の方と挨拶を交わす等の交流は行っている。今後は地域から介護相談等が気楽に行える環境整備に取り組むことを検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等にて報告をし、認知症の方の理解や支援などをお伝えしている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	管理者より全職員へ説明し、取り組んでいる。日々のケアを振り返り、評価をいかして改善に取り組んでいる。	管理者は、外部評価の意義や目的を職員に説明し周知を図っている。これまでやってきたことを振り返り、足りないことが確認できる貴重な機会と捉えている。評価結果を踏まえて会議の中で検討し、ホーム運営や業務改善に反映出来るように取り組んでいく。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度より集まって頂くことが可能になり、地域の情報や情報交換が少しずつできるようになりサービス向上に役立っている。	運営推進会議は、利用者、家族、自治会会長、地域包括支援センター職員、法人内統括責任者、管理者が委員となり、ホーム運営や利用者状況、活動状況、行事予定、ヒヤリハット等を報告している。委員から意見や情報提供を受け、出された意見を介護サービス向上に反映させている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	電話やFAX、メールなどで情報交換を行い、協力関係を築くようになっている。 地域包括の方々とは、運営推進会議に参加いただき、連携を図っている。	新型コロナウイルス移行に伴ない、コロナ状況を判断しながら、行政窓口に出かけたり、電話やメールで質問や相談を行い、アドバイスや情報提供を受け、連携を図っている。また、地域包括支援センター職員が運営推進会議に出席し情報交換を行っている。ホームの空き状況は毎月メールで報告し、事故があればその都度報告している。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を3ヶ月に1回開催し、研修を行っている。職員は、その内容を理解し、拘束や抑制のないケアに努めている。 玄関は安全上施錠しているが、外へ出たい利用者様は、職員と共に外に出ることが出来る。	3ヶ月毎に身体拘束適正委員会を開催し、年2回会議の中で身体拘束の職員研修を実施して、身体拘束が利用者に与える影響について職員間で話し合い、言葉遣いや薬の抑制も含めた身体拘束をしないケアに取り組んでいる。言葉遣いが気になる時には、会議や申し送りの時に話している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束適正委員会や社内研修で研修し、虐待が行われないよう防止に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修にて権利擁護に関する制度について理解し、深めている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、重要事項、契約書の説明を丁寧に言い納得して頂いている。不安や疑問にも納得していただけるまで説明を行っている。 解約時にも丁寧に説明し、話し合いをした上で納得していただけるよう説明をする。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時、苦情や相談の受付体制や処理の手続きについてご家族様へ説明している。 面会時やお電話にて意見や要望などを聞くようにし、ケアに反映、対応している。	利用者の意見や要望を聴き取り、職員間で情報を共有し、実現できるよう取り組んでいる。家族面会時や電話やメールで、家族の意見や要望、心配な事等を聴き取り、ホーム運営や利用者の日常介護に反映させている。また、「形山だより」を毎月家族に送付して利用者の健康状態やホームの暮らしぶりを伝え、家族の安心に繋げている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りや月1回の職員会議では、職員の意見や提案を聞き反映している。事前に話し合いたい事や意見などを聞き、議題に反映している。	毎月職員会議を開催し、話し易い雰囲気の中で職員の意見や提案が活発に提案され、ホーム運営や業務改善に反映させている。また、毎日の申し送り時に職員の気づきや心配な事等を話し合い、管理者に相談して早期解決に向けて取り組んでいる。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は給与、労働時間の改善を行い、職場環境、条件の整備に努めている。 資格取得に向けた支援も行っている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修を行い、年間計画をたて、職員全員が学べるようにしている。 法人研修は、会社携帯にて配信し、視聴でき、確認試験を行い、何度でも受けることができる。	会社提供のスマートフォンで、各自動画を視聴することで社内研修を受講し、法人内のテストを受けて確認している。ホーム内研修は、年間計画を立てて職員会議時に実施し、新人職員については、現場で働きながら教えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会などの情報はありますが参加出来ていない。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様の不安や心配、困っている事をしっかり傾聴し、受け止め安心していただけるよう努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の不安や要望をお聞きし、思いを受け止め安心していただけるよう努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様の思い、状況を把握し、何が必要なのかを考え、出来る限りの対応に努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、利用者様と共に暮らしているという事を認識し、一緒に洗濯物を干したり畳んだり、おやつ作りやイベント食作りを楽しむ事も共にしている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や外出など希望される方は出来るようになり、ご家族様との時間を大切にしている。お電話での会話も多い。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や外出、お電話での会話が出来ており、楽しんでいただいている。	新型コロナ5類移行に伴ない、コロナ状況を判断しながら、短時間の面会を行う等、出来るだけ利用者や家族の気持ちに寄り添っている。また、電話やメールで利用者の様子を伝え、ホーム入居で馴染みの関係が途切れないように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に 努めている	テーブル席やソファなどで座る席は、関係性を把握し、 いい関係で過ごせるよう配慮している。トラブル時には、 職員が間に入り回避出来るよう努めている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を 大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過を フォローし、相談や支援に努めている	退去後は関係者にご本人様の情報を伝え、今までの暮 らしの継続につながるよう支援していく。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に 努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時にどのような生活をされていたのかご家族様にお 聞きし、把握しておくよう職員で情報を共有する。 24時間シートには、ご本人様の言葉や気持ちを記録す る。	入居時に利用者や家族からこれまでの生活歴や暮らし方 の希望を聞き取り、24時間シートに利用者の言葉や気持 ち等を記入し、利用者の思いを大切に介護サービスに 取り組んでいる。自己選択、自己決定が難しい利用者 には、家族に相談したり、職員が利用者寄り添い話し かけ、その表情や仕草から利用者の思いに近づく努力を している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、 これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの暮らしや生活環境の把握に努めている。 ご家族様のお話やご本人様との会話の中での情報も 把握するよう努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力 等の現状の把握に努めている	日々の生活の中でおひとりおひとりの心身の状態に の把握に努め、出来る事を見つけていき、職員で状態 を共有するよう努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方につ いて、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それ ぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計 画を作成している	職員会議でカンファレンスを行い、24時間シートでの 記録を確認し、ご本人様の思いや言葉を共有し、話し 合っている。 入居後3か月又は6か月、介護保険の更新時に見直す。 また状況に変化がある時はその都度見直す。	担当職員は、利用者や家族の意見や要望、心配な事を 聞き取り、毎月の職員会議の中で行うカンファレンス で職員間の意見を出し合い、入居後は3ヶ月、それ以 降は6ヶ月毎に介護計画を作成している。入退院等利 用者の状況が変わった時にはその都度介護計画の見直 しを行っている。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個 別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践 や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきは24時間シートに記録、朝の申 送りや職員会議にて情報の共有、職員会議時カンファ レンスを行う。 実践や介護計画に反映。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様、ご家族様が安心してくださるよう身体状況の変化に対応できるよう柔軟な支援に取り組んでいる。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	病院や自治会、地域の方々との関わり、協力を得られる事により、安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援する。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にご本人様やご家族様の了解を得て、事業所の協力医療機関をかかりつけ医として月2回の訪問診療を受けている。受診後には、ご家族様と情報の共有を行う。	入居時に利用者や家族と話し合い、主治医を決定している。利用者や家族の了解を得て、提携医療機関医師を主治医として月2回の訪問診療を受け、看護師、介護職員と連携し、24時間利用者の健康管理に取り組み、安心の医療体制が整っている。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	情報、気づきを伝え共有する。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、安心して治療に専念していただく為、ご家族様と病院と相談しながら早期に退院出来るよう情報交換に努める。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に「重度化した場合における指針」「看取りに関する指針」を基に、事業所で出来る事を説明し、同意を得る。重度化した場合ご本人様やご家族様、医師、職員が相談して方針を決める。	契約時に、重度化や看取りについて、利用者、家族にホームの方針を説明している。利用者の重度化が進むと、家族や主治医と密に話し合っ方針を確認し、関係者で方針を共有して、出来るだけ本人、家族の希望に沿った終末期の支援が出来るよう努めている。これまで看取りの経験はないが体制は整えている。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	ヒヤリハットや事故報告書を作成。職員全員に回覧。改善すべき点をあげ、改善点を検討し、事故防止に取り組む。 社内研修において応急手当や対応などの研修を行っている。	事故防止や発生した場合の対応マニュアルを作成し、事故を起こさないための職員体制や対応について職員間で話し合い、事故防止の徹底に取り組んでいる。内部研修の中で、応急手当や初期対応について研修し、実践力を身につけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜想定での火災時の消火、通報、避難訓練を行っている。消防署から来ていただき消火器や非常ベルの使い方なども教わっている。	年2回非常災害を想定した避難訓練を実施し、消火器や通報装置の使い方、非常口や避難経路、避難場所を確認し、利用者を安全に避難誘導できる体制を整えている。また、非常食や飲料水、非常用持ち出し袋を準備して非常災害に備えている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけは人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないよう声掛けを行っている。社内研修でも接遇マナーやプライバシー保護について学んでいる。	利用者の人権を尊重する介護サービスについて、職員間で話し合い、利用者のプライバシーを損ねないように取り組んでいる。特に、言葉遣いに注意して、利用者がホームの中で安心して穏やかに暮らせるように支援している。また、利用者の個人情報の取り扱いや職員の守秘義務についても管理者が職員に説明し、周知徹底が図られている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の意思を尊重しつつ思いに添えるよう援助している。 ご本人様の表情、行動から希望や思いを汲み取り、ご本人様が自ら選べるような場面作りを行う。ご自身で行えるよう支援している。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日楽しく満足していただけるよう声掛けやレクリエーションや行事を行い、ご本人様のペースに合わせて過ごせるよう支援している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	二か月に1回程度理美容の方が来られ、ご本人様の希望に沿って切っていただいている。 髪の毛の長めの方は職員がむすんでいる。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	セントラルキッチンより季節や行事に合わせた食事が提供される。 個人に合わせた形態で提供している。 イベントや誕生会のおやつや食事が楽しみになるよう支援している。	セントラルキッチンから配食される栄養バランスの取れた料理を提供している。利用者一人ひとりに合わせた形態にして、美味しく食べることが出来るよう配慮している。利用者の残存機能に合わせて下膳やテーブル拭き等を一緒に行っている。鏡開きをして善哉を作って食べたり、季節の食材を使っておやつを作る等、「食」を楽しめるよう取り組んでいる。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の状態に合わせて、食事形態を変えている。 水分摂取の確保として色々な飲み物ゼリーを提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ご自身で歯磨きをしていただくよう声掛け見守りを行っている。ご自身でできない方は、職員がお手伝いし、支援している。 義歯はケースに入れ消毒を行っている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	24時間シートや健康チェック表を活用し、個人の排泄パターンを把握するようにしている。 言葉がけや誘導に気を付け排泄の自立に向けた支援を行っている。	24時間シートや健康チェック表で利用者の排泄パターンを把握し、タイミングを見ながら声掛けや誘導を行い、トイレでの排泄の支援に取り組んでいる。夜間帯は利用者の希望や体調に配慮してトイレ誘導を行い、オムツやリハビリパンツ、パットを活用し、利用者一人ひとりに合わせて柔軟に対応している。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食にヤクルトやヨーグルトを取り入れている。水分もしっかり摂る。 一日の中に運動や排泄時の腹部マッサージを行うようにしている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一人ずつリラックスしてゆっくり入浴が出来るよう支援している。入浴を嫌がる方には対応を工夫し、入っていただけよう支援している。 体調に応じてシャワー浴又は清拭へと切り替えるなどし支援している。	入浴は利用者の希望や体調に合わせて週2～3回支援し、湯船にゆっくり浸かってもらい、利用者職員が会話しながら楽しい入浴となるよう支援している。入浴拒否の利用者には、時間を変更したり、職員が交代して対応し無理な場合は無理強いせず、清拭や足浴に変更し利用者の清潔保持に取り組んでいる。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調により居室で休めるよう支援している。 夜間の睡眠がとれるよう日中の活動への参加を促し支援している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が薬の内容について把握するようにしている。 服薬後、症状に変化があった場合は記録し、職員間で共有し、医師、薬剤師に相談しアドバイスを受けている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や特技を把握し、日々楽しく過ごせるように支援している。 洗濯物干しやたたみ、テーブル拭きなど役割を持つことで喜びやいきいきとした生活を遅れるよう支援している。 誕生会や行事など楽しみを提供している	利用者の趣味や特技、能力を職員が把握し、日常生活の中で洗濯物干しやたたみ、テーブル拭き等、役割を持って生き生きと過ごせるよう支援している。また、ホームの行事や誕生会、室内レクリエーションの中で、利用者職員と一緒に楽しみ、気分転換を図りながら、利用者が日々楽しく過ごせる支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	少人数での外出、天気の良い日は玄関外へ出て日光浴、散歩を行うことがあった。	外出や外食、地域の方との交流等を控えている状況であるが、新型コロナ5類移行に伴ない、コロナ状況を判断しながら、買い物や外食、花見等の外出レクリエーションを検討している。隣が大きな公園であり、天気の良い日には公園を散歩したり、玄関前で外気浴を楽しむ等利用者の気分転換を図っている。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様と相談し、希望時、少額ではあるが所持出来る。所持金がない場合も立替金より購入している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があれば、ご本人様からお電話したり、こちらから取り次いだり出来るように支援している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	衛生面や清潔感を持てるように努力し、生活感や季節感を取り入れ、心地よい空間づくりを行い工夫に努めている。ソファを置きつるげようになっている。	ホーム内は清掃が行き届き、玄関やリビングルーム等には、季節感を取り入れた作品や小物を飾り、観葉植物を置く等して、季節感、生活感を大切にした支援に取り組んでいる。テレビの前のソファで寛いだり、テーブルでティータイムやおやつを楽しむ等、広い空間の中を移動しながらメリハリのある日常を過ごしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファがあり、気の合う方同士で会話をされたり、休息をされ自由に過ごせるよう工夫している。フロアが広い為、一人でゆっくりしたい時や数名で楽しみたい時、どちらでもゆっくり過ごせる居場所の工夫をしている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や作品などを並べ、使い慣れた物などを置くことにより落ち着き、安心出来るような工夫をしている。	利用者の馴染みの物や、家族の写真、生活必需品、仏壇等、大切な物を持ち込んでもらい、生活環境が急変しないように配慮し、利用者が安心して過ごせる支援に取り組んでいる。本人の趣味の作品(和紙の貼り絵)等を飾っている利用者もおられる。利用者と一緒に時々居室の掃除をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は広くわかりやすく動きやすい造りである。フロア内や廊下、居室、トイレ、浴室など手すりあり。安全で自立した生活が送れるよう工夫している。		